

データベース整備・検討委員会

『看護系大学の教育等に関するデータベース報告書』

・ 2011年度状況調査

「データベース整備・検討委員会」

1. 構成員

1) 委員

田村やよひ（委員長 国立看護大学校）

石井邦子（千葉県立保健医療大学） 太田喜久子（慶応義塾大学） 川口孝泰（筑波大学）

野村美香（神奈川県立保健福祉大学）

2) 協力者

潮 洋子（日本看護系大学協議会事務局）

2. 趣旨

本委員会は臨時委員会として位置づけられていますが、日本看護系大学協議会の会員校における学習環境、教育内容、社会的役割等の現状を毎年数量的に把握し、本会及び会員校における看護学教育のあり方の検討、教育政策、看護政策等への提言のための基礎資料とするものです。

3. 活動経過

平成 24 年 9 月 20 日 第 1 回データベース整備・検討委員会開催

昨年度事業からの課題とその対応状況の確認

本年度調査の時期と内容を決定 等

平成 24 年 12 月 18 日 第 2 回データベース整備・検討委員会開催

調査結果の概要に関する意見交換

調査報告書執筆の役割分担の決定 等

平成 25 年 3 月 21 日 第 3 回データベース整備・検討委員会開催

調査報告書の内容に関する意見交換

来年度の調査内容・時期および 5 年毎のまとめに関する意見交換

■「看護系大学等に関する実態調査 2011」の報告

本調査は、1999 年に「21 世紀に求められる看護学教育」を検討する過程で、設置主体や設置形態の異なる看護系大学の学習環境、教育内容、社会的役割の現状を数量的に把握する必要性から開始され、今日に至っています。本調査はまた、日本看護系大学協議会の事業の一環として総会で承認されており、調査対象年度に学生を受け入れているすべての看護系大学を対象として毎年実施されているものです。

本調査の意義は、看護系大学の学生や教員の状態、社会貢献や研究活動成果の発信状況等の実態把握を通して、日本の保健医療や社会の動向を踏まえた看護学教育のあり方を検討し、教育政策、看護政策等に提言するための基礎資料となります。同時に、会員校における将来計画等を検討する際の貴重な参考資料ともなりうるものです。

本調査の担当は、1999 年～2001 年度までは「データベース整備委員会（代表：濱田悦子）」、2002 年度～2008 年度までは本協議会事務局、2009 年度からの 2 年間は「データベース整備・検討委員会（委員長：9 月まで山下香枝子、10 月から太田喜久子）」でした。2012 年度も委員会名に変更はあり

ませんが、委員長及び委員の交代があり、今年度は私ども（上記メンバー）がその任を負っています。

「看護系大学の教育等に関する実態調査 2011」は、当該年度に学士課程を開設している会員校 200 校を対象として、5 月 1 日時点での回答を求めました。調査実施時期は、平成 24 年 10 月 29 日～同年 12 月 17 日までとしました。回答は 192 校からあり、回収率は 96.0%でした（内訳は下記表のとおり）が、残念なことに 1 校は無効として扱わざるを得ませんでした。このため、有効回答 191 校を分析対象と致しました。多くの会員校の皆様のご協力をいただきましたことに対し、心より感謝申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。

今年度を実施した調査の主な特徴を記しますと、以下の 2 点が挙げられます。

- ① 高等教育行政対策委員会文部科学省委託事業プロジェクトからの協力要請を受けて、教員の職位別年齢構成、教員身充足数および最終取得学位について初めて調査したこと。
- ② リスクマネジメントに関する調査項目は、毎年実施する意義について検討し、今年度調査からは除外したこと。

表 2011 年度調査の回収状況

	全体	国立大学法人	公立	私立
配布数	200	43	46	111
回答数	192	42	45	105
回収率	96.0%	97.7%	97.8%	94.6%

4. 今後の課題

今年度に初めて実施した、教員の年齢構成、未充足数、最終取得学位の項目に関しては、質問方法、調査票のデザイン等改善を検討する必要があります。来年度は、2008 年度～2012 年度の 5 年毎の調査の比較検討を行う年でもあるので、基本的に調査内容を大きな変更をすることは難しいのではないかと考えていますが、今年度の調査経験から、2013 年度以降に実施する調査では、新たに項目を設定する必要があるもの、削除が可能と考えられるもの等が浮かび上がってきています。本調査でしか分からないような貴重なデータを着実に収集、蓄積していくことが求められていると考えますので、他の調査などとの重複についても精査して、次期の委員会に引き継ぐ準備を進める所存です。

目 次

2011 年度状況調査

1. 看護系大学学部・学科の状況
 - 1) 2011 年度の完成年次・開講状況
 - 2) 2011 年度における教員の状況
 - 3) 看護教員の年齢
 - 4) 看護教員の最終取得学位

2. 看護系大学院の状況
 - 1) 看護系大学院の完成年次・開講状況
 - 2) 2011 年度における大学院教員の状況

3. 看護系大学学部・学科および看護系大学院の学生状況
 - 1) 在学状況
 - 2) 入学状況
 - 3) 卒業・修了状況
 - 4) 卒業生・修了生の就職・進学状況

4. 教員の研究活動

5. 社会貢献
 - 1) 公開講座の開催
 - 2) 教員の各種機関への貢献

6. 看護関連附属研究・研修機関

7. 国際交流の状況
 - 1) 国際交流協定
 - 2) 在学生の留学先
 - 3) 留学生の受け入れ
 - 4) 教員の海外派遣
 - 5) 学生以外（教員、研究者、実践家等）の受け入れ

2011 年度状況調査

1. 看護系大学学部・学科の状況

1) 2011 年度の完成年次・開講状況(表 1-1) (表 1-2)

看護系大学の学部・学科に関して回答のあった 191 校のうち、完成年次を迎えているのは 160 校 (83.8%) であった。設置主体別にみると、公立 2 校と私立 29 校が完成年次を迎えていなかった。

また、編入制度については表 1-2 にあるように、106 校 (55.5%) が開設しており、昨年度の 118 校 (62.4%) に比べるとやや減少傾向にあった。また、国立大学および公立大学において制度を有する割合が高かった。

表 1-1. 看護系大学学部・学科完成年次状況

	完成年次を迎えている	完成年次を迎えていない	合計
国立大学	41 (97.6%)	1 (2.4%)	42 (100.0%)
公立大学	43 (95.6%)	2 (4.4%)	45 (100.0%)
私立大学	76 (72.4%)	29 (27.6%)	105 (100.0%)
合計	160 (83.3%)	32 (16.7%)	192 (100.0%)

表 1-2. 看護系大学学部・学科の編入制度

	ある	ない	合計
国立大学	36 (85.7%)	6 (14.3%)	42 (100.0%)
公立大学	32 (71.1%)	13 (28.9%)	45 (100.0%)
私立大学	38 (36.2%)	67 (63.8%)	105 (100.0%)
合計	106 (55.2%)	86 (44.8%)	192 (100.0%)

2) 2011 年度における教員の状況(表 1-3、1-4)

2011 年度に完成年次を迎えている回答大学 159 校に所属する専任教員は、看護教員 5,210 名 (1 校あたりの平均教員数が 32.8 名)、看護以外の教員 991 名 (1 校あたりの平均教員数 6.2 名) の計 6,201 名が所属していた。昨年度の看護教員の 1 校あたりの平均教員数は 33.1 名、看護以外の教員が 4.8 名であり、看護教員以外の教員数の増加が認められた。看護教員を職位別にみると、助教が最も多く、次いで教授であった。教員の未充足数は、看護教員 209 名、1 校あたり平均 1.3 名不足している状態であった。

表 1-3. 完成年次を迎えている大学の教員数

	合計(回答校数=159)			
	看護教員		それ以外の教員	
	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数
教授	1,240	7.8	585	3.7
准教授	960	6.0	185	1.2
講師	1,010	6.4	101	0.6
助教	1,452	9.1	85	0.5
助手	502	3.2	9	0.1
その他	46	0.3	26	0.2
合計	5,210	32.8	991	6.2

完成年次を迎えている大学の設置主体別による看護教員の1校あたりの平均教員数は、国立大学27.8名、公立大学は37.0名、私立大学は33.1名と昨年に続いて公立大学の教員数が多いという結果であった。教員の職位別人数では、国立大学は教授と助教が多く占めているのが特徴的であった。一方、私立大学では教授の人数が最も多いという結果であった。また、看護以外の教員では、主に教授が多く配置されていた。設置主体別に看護教員の未充足数をみると、国立大学では1校あたり平均1.8名、公立大学2.2名、私立大学0.5名不足しているという状態であった。

表 1-4. 完成年次を迎えている国立・公立・私立の教員数

	国立大学(回答校数=41)				公立大学(回答校数=43)				私立大学(回答校数=75)			
	看護教員		それ以外の 教員		看護教員		それ以外の 教員		看護教員		それ以外の 教員	
	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数
教授	309	7.5	148	3.6	360	8.4	170	4.0	571	7.6	267	3.6
准教授	195	4.8	34	0.8	300	7.0	64	1.5	465	6.2	87	1.2
講師	145	3.5	8	0.2	330	7.7	30	0.7	535	7.1	63	0.8
助教	442	10.8	28	0.7	442	10.3	23	0.5	568	7.6	34	0.5
助手	31	0.8	0	0.0	138	3.2	2	0.0	333	4.4	7	0.1
その他	16	0.4	9	0.2	22	0.5	16	0.4	8	0.1	1	0.0
合計	1,138	27.8	277	5.5	1,592	37.0	305	7.1	2,480	33.1	459	6.1

3) 看護教員の年齢 (表 1-5)

完成年次を迎えている大学における教員の年齢を設置主体別の数で見ると、国立大学では 35～39 歳、公立大学では 40～44 歳、私立大学では 45～49 歳が最も多かった。また 65 歳以上の教員は私立大学で多くみられた。

表 1-5. 看護教員の年齢構成

年齢構成	国立 回答：41 校		公立 回答：43 校		私立 回答：75 校		全体	
	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数
29 歳以下	37	0.9	62	1.4	56	0.7	155	1.0
30～34	153	3.7	190	4.4	235	3.1	578	3.6
35～39	208	5.1	244	5.7	363	4.8	815	5.1
40～44	180	4.4	291	6.8	385	5.1	856	5.4
45～49	202	4.9	279	6.5	459	6.1	940	5.9
50～54	152	3.7	242	5.6	326	4.3	720	4.5
55～59	129	3.1	161	3.7	220	2.9	510	3.2
60～64	85	2.1	110	2.6	205	2.7	400	2.5
65 歳以上	1	0.0	22	0.5	141	1.9	164	1.0
合計	1,147	28.0	1,601	37.2	2,390	31.9	5,138	32.3

4) 看護教員の最終取得学位 (表 1-6)

完成年次を迎えている大学における教員の最終取得学位をみると、設置主体別の博士号取得者数と割合は、国立大学 496 名 42.3%、公立大学 443 名 28.3%、私立大学 541 名 24.0%であった。取得学位の種類は、看護学が最多であったが、看護学以外の学位も多かった。また、次回調査時の検討課題として、「それ以外の学位」の種類を明らかにすることと、教員数と取得学位数が異なった結果から、学位の「最終取得」の意味が正確に伝わっていない可能性が示唆されたため、表現を工夫することが挙げられた。

表 1-6. 看護教員の最終取得学位

学位名称	国立大学 回答：41 校				公立大学 回答：43 校				私立大学 回答：75 校			
	学士	修士	博士	合計	学士	修士	博士	合計	学士	修士	博士	合計
看護学	65	357	151	573	137	590	204	931	181	692	220	1,093
保健学	1	107	109	217	4	100	71	175	6	157	85	248
それ以外	16	130	236	382	32	261	168	461	139	534	236	909
合計	82	594	496	1,172	173	951	443	1,567	326	1,383	541	2,250

2. 看護系大学院の状況

1) 看護系大学院の完成年次・開講状況(表 2-1、2-2、2-3、2-4、2-5、2-6)

回答大学の中で、看護系大学院修士課程をもつ大学は 129 校(67.5%)であり、昨年の 121 校(64.0%)より増加している。修士課程は、国立大学では 41 校すべてで開設され、公立大学では 40 校(88.9%)、私立大学では 48 校(45.7%)に開設されていた。私立大学の修士課程開設数は、今回の調査で初めて国立大学、公立大学を上回った。

国立大学の修士課程はすべてで完成年次を迎えており、博士課程は 25 校で開設されていた。公立大学では 40 校中 39 校が修士課程の完成年次を迎えており、うち約半数の 20 校が博士課程を開設していた。私立大学では、修士課程を有する 48 校中 37 校で修士課程の完成年次を迎え、博士課程は 16 校で開設されていた。

大学院の開講状況は、昼夜間開講が 128 校中 93 校(72.7%)であり、これは社会人学生への対応が反映されていると考えられる。

表 2-1. 看護系大学院修士課程の有無

	ある	ない	合計
国立大学	41(100.0%)	0(0.0%)	41(100.0%)
公立大学	40(88.9%)	5(11.1%)	45(100.0%)
私立大学	48(45.7%)	57(54.3%)	105(100.0%)
合計	129(67.5%)	62(32.3%)	191(100.0%)

表 2-2. 看護系大学院博士課程の有無

	ある	ない	合計
国立大学	25(61.0%)	16(38.1%)	41(100.0%)
公立大学	20(50.0%)	20(50.0%)	40(100.0%)
私立大学	16(34.0%)	31(66.0%)	47(100.0%)
合計	61(47.7%)	67(51.9%)	128(100.0%)

表 2-3. 看護系大学大学院開講状況

	昼間開講のみ	夜間開講のみ	昼夜間開講	合計
国立大学	8(19.0%)	1(2.4%)	32(78.0%)	41(100.0%)
公立大学	8(20.0%)	2(5.0%)	30(75.0%)	40(100.0%)
私立大学	15(31.9%)	1(2.1%)	31(66.0%)	47(100.0%)
合計	31(24.0%)	4(3.1%)	93(72.7%)	128(100.0%)

大学院で科目等履修制度を有している大学は 128 校中 102 校(79.7%)であった。

表 2-4. 科目等履修制度の有無

	ある	ない	合計
国立大学	33 (80.5%)	8 (19.0%)	41 (100.0%)
公立大学	33 (82.5%)	7 (17.5%)	40 (100.0%)
私立大学	36 (76.6%)	11 (23.4%)	47 (100.0%)
合計	102 (79.7%)	26 (20.2%)	128 (100.0%)

また、専門看護師課程を開設しているのは、回答のあった 128 大学のうち 82 校 (64.1%) であった。昨年の 79 校より増加している。設置主体別の開設数をみると私立大学がやや多かった。専門看護師課程の分野では、がん看護が 50 校と最も多く、次いで精神看護、老年看護、小児看護、慢性期看護とクリティカルケアの順に多くなっていた。

表 2-5. 専門看護師課程の開設

	ある	ない	合計
国立大学	23 (56.1%)	18 (42.9%)	41 (100.0%)
公立大学	28 (70.0%)	12 (30.0%)	40 (100.0%)
私立大学	31 (66.0%)	16 (34.0%)	47 (100.0%)
合計	82 (64.1%)	46 (35.7%)	128 (100.0%)

表 2-6. 開設されている専門看護師課程

	がん	慢性	母性	小児	老年	精神	家族	感染	地域	クリティカルケア	在宅
国立	16	4	3	5	5	4	1	1	0	3	2
公立	15	10	4	14	11	16	4	4	5	7	5
私立	19	7	9	7	11	14	1	4	6	11	4
合計	50	21	16	26	27	34	6	9	11	21	11

2) 2011 年度における大学院教員の状況 (表 2-7、2-8)

回答の得られた大学 (125 校) における、看護系大学院に所属する専任教員は、看護教員 2,242 名 (1 校あたりの平均教員数 18.0 名)、看護以外の教員 505 名 (1 校あたりの平均教員数 4.2 名) の計 2,747 名であった。教授職は 1,310 名 (47.7%) であった。

設置主体別にみると、看護教員では国立大学では計 778 名で平均 18.9 名、公立大学では計 736 名で 1 校平均 18.5 名、私立大学では計 728 名で 1 校平均 16.5 名となっており、国公立大学の看護教員数が多い傾向であった。看護教員以外の教員は、国立大学 167 名 (1 校平均 4.0 名)、公立大学 181 名 (1 校平均 4.6 名)、私立大学 157 名 (1 校平均 3.6 名) であった。全体でみると、私立大学では国公立大学に比べ、大学院を担当する教員数が少ないという結果であった。また、職位別にみると、国立大学では助教が大学院教育を担当している比率が高かった。

表 2-7. 大学院教員数

	合計（回答校数=125）			
	看護教員		それ以外の教員	
	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数
教授	953	7.6	357	2.9
准教授	634	5.1	94	0.8
講師	303	2.4	22	0.2
助教	296	2.4	19	0.2
助手	23	0.2	0	0
その他	33	0.3	13	0.1
合計	2,242	18	505	4.2

表 2-8. 国立・公立・私立による大学院教員数

	国立大学（回答校数=41）				公立大学（回答校数=40）				私立大学（回答校数=44）			
	看護教員		それ以外の 教員		看護教員		それ以外の 教員		看護教員		それ以外の 教員	
	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数
教授	279	6.8	111	2.7	321	8	130	3.3	353	8	116	2.6
准教授	170	4.1	26	0.6	226	5.7	39	1	238	5.4	29	0.7
講師	104	2.5	4	0.1	114	2.9	11	0.3	85	1.9	7	0.2
助教	200	4.9	17	0.4	65	1.6	1	0	31	0.7	1	0
助手	13	0.3	0	0	10	0.3	0	0	0	0	0	0
その他	12	0.3	9	0.2	0	0	0	0	21	0.5	4	0.1
合計	778	18.9	167	4	736	18.5	181	4.6	728	16.5	157	3.6

3. 看護系大学学部・学科および看護系大学院の学生状況

1) 在学状況 (表 3-1、3-2、3-3、3-4、3-5、3-6、3-7)

2011 年度に完成年次を迎えていた学部・学科の在学学生数は表 3-1 に示したとおりで、学部・学科に在籍している総学生数は、57,488 名で、昨年度よりも約 5000 名増えたが、男子学生は 5,812 名(10.1%)で、昨年の 9.9%と同等であった。編入学生は、全体で 1628 名、昨年比べて約 100 名減少していた。

学部・学科の在学学生について設置主体別にみると、表 3-2 に示したように、私立大学の在校生が最も多く 29,878 名 (56.8%) を占め、公立大学、国立大学の順であった。回答数の違いもあるため単純な比較はできないが、昨年と比較すると、国立大学が 82 名増、公立大学が 675 名増、私立大学が 4,166 名増であった。一校あたりの平均在校生数は、私立大学が最も多く 403.8 名、次いで公立大学が 358.9 名、国立大学が 305.7 名であった。編入学生は全体で 1,628 名 (2.8%) おり、国立大学・公立大学の学生が 75.7%(1,233 名)を占めていた。

表 3-1. 2011 年度完成年次を迎えている大学の在学学生数

		全体					
		男		女		合計	
		合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数
学部・学科全体 (回答校数：157 校)	全体	5,812	37.0	51,676	329.1	57,488	366.2
	上記のうち編入 学生	141	0.9	1,487	9.5	1,628	10.4

表 3-2. 2011 年度完成年次を迎えている大学の設置主体別在学学生数

		男		女		合計	
		合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数
国立大学(回答校=41 校)		1,289	31.4	11,246	274.3	12,535	305.7
	うち編入学生	46	1.1	517	12.6	563	13.7
公立大学(回答校=42 校)		1,497	35.6	13,578	323.3	15,075	358.9
	うち編入学生	61	1.5	609	14.5	670	16.0
私立大学(回答校=74 校)		3,026	40.9	26,852	362.9	29,878	403.8
	うち編入学生	34	0.5	361	4.9	395	5.3

大学院に在籍している学生数は、表 3-3 に示したとおり、修士課程/博士後期課程が 3,611 名、博士後期課程が 1,275 名、合計 4,886 人であった。昨年に比べると、修士課程/博士前期課程で 236 名増、博士後期課程で 113 名増であった。専門看護師課程の学生は 449 名で、昨年よりも 39 名減少していた。

表 3-3. 2011 年度完成年次を迎えている大学院の在学院生

		全体					
		男		女		合計	
		合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数
修士課程/博士前期課程 院生 (回答校数: 115 校)	修士課程/博士前期課程	573	5.0	3,038	26.4	3,611	31.4
	上記のうち専門 看護師課程	52	0.5	397	3.5	449	3.9
博士後期課程院生 (回答校数: 48 校)		221	4.6	1,054	22.0	1,275	26.6

表 3-4. 2011 年度完成年次を迎えている大学院の設置主体別在学学生数

			男		女		合計	
			合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数
国立大学	回答校=41 校	修士・博士前期課程	250	6.0	1,245	29.6	1,495	35.6
		うち専門看護師課程	9	0.2	113	2.7	122	2.9
	回答校=22 校	博士後期課程	140	6.4	581	26.4	721	32.8
公立大学	回答校=39 校	修士・博士前期課程	203	5.2	873	22.4	1,076	27.6
		うち専門看護師課程	27	0.7	141	3.6	168	4.3
	回答校=17 校	博士後期課程	64	3.8	282	16.6	346	20.4
私立大学	回答校=34 校	修士・博士前期課程	120	3.5	920	27.1	1,040	30.6
		うち専門看護師課程	16	0.5	143	4.2	159	4.7
	回答校=9 校	博士後期課程	17	1.9	191	21.2	208	23.1

表 3-4 に示したように、設置主体別にみると、修士課程/博士前期課程、博士後期課程のいずれも、国立大学が多く、次いで公立大学、私立大学の順であった。博士後期課程については国立大学の学生数が最も多く、専門看護師課程においては、公立大学が最も多かった。

次に、大学の学部・学科における教員一人当たりの学生数について、表 3-5 に示した。学部・学科教

育について完成年次を迎えている大学全体では、教授が 46.4 名、准教授 59.9 名、講師 56.9 名、助教 39.6 名であった。設置主体別にみると、教授においては、私立大学、公立大学、国立大学の順で学生数が多かった。しかし、准教授においては、国立大学と私立大学はほぼ同じで、公立大学が少なかった。講師においては、国立大学、私立大学、公立大学の順で多く、助教においては、私立大学、公立大学、国立大学の順であった。

表 3-5. 2011 年度完成年次を迎えている大学の職位別教員一人当たりの平均学生数（学部・学科）

	国立			公立			私立			全体		
	教員数	学生数	平均学生数	教員数	学生数	平均学生数	教員数	学生数	平均学生数	教員数	学生数	平均学生数
教授	309	12,535	40.6	360	15,075	41.9	571	29,878	52.3	1,240	57,488	46.4
准教授	195		64.3	300		50.3	465		64.3	960		59.9
講師	145		86.4	330		45.7	535		55.8	1,010		56.9
助教	442		28.4	442		34.1	568		52.6	1,452		39.6
助手	31		404.4	138		109.2	333		89.7	502		114.5
その他	16		783.4	22		685.2	8		3,734.8	46		1,249.7

大学院の修士課程/博士前期課程における教員一人当たりの平均学生数を職位別にみると、表 3-6 の通りで、修士課程/博士前期課程で全体では、教授 3.8 名、准教授 5.7 名、講師 11.9 名であった。設置主体別にみると、教授、准教授においては、国立大学、公立大学、私立大学の順で多く、講師においては、国立大学、私立大学、公立大学の順で、助教においては公立大学、私立大学、国立大学の順が多かった。全体平均と比較すると、公立大学では、助教を除くすべての職位で平均を下回り、私立大学においては、講師と助教を除く職位、国立大学では助教を除く職位で、平均を上回っていた。

表 3-6. 2011 年度完成年次を迎えている大学院の職位別教員一人当たりの平均学生数（修士・博士前期課程）

	国立			公立			私立			全体		
	教員数	学生数	平均学生数	教員数	学生数	平均学生数	教員数	学生数	平均学生数	教員数	学生数	平均学生数
教授	285	1,495	5.2	321	1,076	3.4	353	1,040	2.9	959	3,611	3.8
准教授	170		8.8	226		4.8	238		4.4	634		5.7
講師	104		14.4	114		9.4	85		12.2	303		11.9
助教	200		7.5	65		16.6	31		33.5	296		12.2

博士後期課程は表 3-7 に示すとおり、全体では、教授 1.3 名、1 准教授 2.0 名、講師 4.2 名であった。設置主体別にみた教員一人あたりの学生数は、教授、准教授、講師、いずれも国立大学、公立大学、私立大学の順で多かった。全体平均と比較すると、私立大学がすべての職位において全体平均の人数を上回っていた。これに対し、公立大学は助教以外が、国立大学では講師以外が、全体平均を下回っていた。修士課程/博士前期課程と博士後期課程においては、いずれも全体平均を上回っていたのは国立大学であった。公立ならびに私立では、修士課程/博士前期課程において私立大学の講師が全体平均をうまわっていたのを除くと、全体平均の学生数を下回っていた。

表 3-7. 2011 年度完成年次を迎えている大学院の職位別教員一人当たりの平均学生数（博士後期課程）

	国立			公立			私立			全体		
	教員数	学生数	平均学生数	教員数	学生数	平均学生数	教員数	学生数	平均学生数	教員数	学生数	平均学生数
教授	285	721	2.5	321	346	1.1	353	208	0.6	959	1,275	1.3
准教授	170		4.2	226		1.5	238		0.9	634		2.0
講師	104		6.9	114		3.0	85		2.4	303		4.2
助教	200		3.6	65		5.3	31		6.7	296		4.3

2) 入学状況（表 3-8、3-9、3-10）

2011 年度の学部・学科入学志願者数は回答のあった 188 校で延べ 80,576 名とほぼ昨年と同様で、1 校あたりの平均志願者数は 479.6 名であり、昨年の 468.1 名をやや上回った。入学者数は 15,209 名で昨年度よりも少なく、定員を 640 名下回っていた。学部・学科を設置主体別にみると、国立大学では、回答校の平均定員数が 70.9 名に対して平均志願者数が 253.9 名、公立大学では 79.5 名の平均定員数に対して平均志願者が 366.0 名、私立大学では 91.9 名の平均定員に 648.0 名の平均志願者であった。

※表 3-8～3-10 の平均人数は、項目ごと回答した学校数で算出している。

表 3-8. 2011 年度に開講している看護系学部・学科の入学状況

(2011 年 4 月入学生)

	全体								
	定員数		内訳 ()内は回答校数	男		女		合計	
	合計人数	平均人数		合計人数	平均人数	合計人数	平均人数	合計人数	平均人数
国立大学 (回答：42 校)	2,976	70.9	志願者数 (41)	1,023	25.0	9,386	228.9	10,409	253.9
			入学者数 (42)	278	6.6	2,725	64.9	3,003	71.5
公立大学 (回答：44 校)	3,497	79.5	志願者数 (43)	1,438	33.4	14,300	332.6	15,738	366.0
			入学者数 (44)	285	6.5	3,292	74.8	3,577	81.3
私立大学 (回答：102 校)	9,376	91.9	志願者数 (84)	7,102	84.5	47,327	563.4	54,429	648.0
			入学者数 (87)	1,056	12.1	7,573	87.0	8,629	99.2
全体 (回答：188 校)	15,849	84.3	志願者数 (168)	9,563	56.9	71,013	422.7	80,576	479.6
			入学者数 (173)	1,619	9.4	13,590	78.6	15,209	87.9

一方、修士課程/博士前期課程の志願者は、表 3-9 に示した通り、全体で 1,722 名、平均志願者数が 19.6 名であり、このうち専門看護師課程は 7.7 名であった。専門看護師課程の志願者は、昨年の 8.1 名に比べると若干少ないが、修士課程/博士前期課程全体の志願者でみると、昨年の 18.8 名を上回った。設置主体別にみると、修士課程/博士前期課程においては、国立大学の平均定員数が 19.6 名に対して平均志願者数が 21.0 名、公立大学では平均定員数が 13.4 名に対して平均志願者数は 17.5 名、私立大学では平均定員数 15.0 名に対して平均志願者数は 20.0 名であった。

定員と比較して入学者数をみると、全体では 1,940 名の定員に対して、入学者数は 1,239 名にとどまっている。昨年は、定員 1,947 名に対して 1,172 名の入学であったので、昨年度よりも定員を充足していることがわかった。

表 3-9. 2011 年度に開講している看護系大学院の入学状況〔修士・博士前期課程〕 (2011 年 4 月入学生)

	全体								
	定員数		内訳 ()内は回答校数	男		女		合計	
	合計 人数	平均 人数		合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数
国立大学 (回答:41校)	802	19.6	志願者数 (37)	182	4.9	594	16.1	776	21.0
入学者数 (37)			124	3.4	433	11.7	557	15.1	
うち専門看護師課程			志願者数 (7)	14	2.0	64	9.1	78	11.1
			入学者数 (6)	10	1.7	34	5.7	44	7.3
公立大学 (回答:37校)	495	13.4	志願者数 (30)	110	3.7	415	13.8	525	17.5
入学者数 (28)			87	3.1	273	9.8	360	12.9	
うち専門看護師課程			志願者数 (11)	13	1.2	47	4.3	60	5.5
			入学者数 (9)	10	1.1	27	3.0	37	4.1
私立大学 (回答:43校)	643	15.0	志願者数 (21)	85	4.0	336	16.0	421	20.0
入学者数 (21)			69	3.3	253	12.0	322	15.3	
うち専門看護師課程			志願者数 (3)	6	2.0	18	6.0	24	8.0
			入学者数 (3)	4	1.3	10	3.3	14	4.7
全体 (回答:121校)	1,940	16.0	志願者数 (88)	377	4.3	1,345	15.3	1,722	19.6
入学者数 (86)			280	3.3	959	11.2	1,239	14.4	
うち専門看護師課程			志願者数 (21)	33	1.6	129	6.1	162	7.7
			入学者数 (18)	24	1.3	71	3.9	95	5.3

博士後期課程については、表 3-10 に示したとおり、志願者は全体で 309 名と、昨年同様の結果であった。平均志願者数は 9.7 名で、昨年の 11.1 名を若干下回った。設置主体別にみると、国立大学では平均定員 9.7 名に対して平均志願者 10.2 名、公立大学では平均定員 3.7 名に平均志願者 7.6 名、私立大学では平均定員 8.5 名に対して平均志願者 11.0 名という結果であった。

定員と比較して入学者数をみると、博士後期課程全体では 415 名の定員に対して、207 名の入学者にとどまっていた。昨年、定員 448 名に対して 301 名の入学であったことと比べると、昨年よりも定員に対する入学者は少なかった。しかしながら、公立大学においては平均定員 3.7 名に対し、平均入学者 6.0 名という結果であった。

表 3-10. 2011 年度に開講している看護系大学院の入学状況〔博士後期課程〕

(2011 年 4 月入学生)

	全体								
	定員数		内訳 ()内は回答校数	男		女		合計	
	合計 人数	平均 人数		合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数
国立大学 (回答 : 24 校)	233	9.7	志願者数 (20)	52	2.6	152	7.6	204	10.2
			入学者数 (18)	38	2.1	95	5.3	133	7.4
公立大学 (回答 : 19 校)	71	3.7	志願者数 (8)	27	3.4	34	4.3	61	7.6
			入学者数 (7)	22	3.1	20	2.9	42	6.0
私立大学 (回答 : 13 校)	111	8.5	志願者数 (4)	7	1.8	37	9.3	44	11.0
			入学者数 (4)	6	1.5	26	6.5	32	8.0
全 体 (回答 : 56 校)	415	7.4	志願者数 (32)	86	2.7	223	7.0	309	9.7
			入学者数 (29)	66	2.3	141	4.9	207	7.1

3) 卒業・修了状況(表 3-11、12)

看護系学部・学科の卒業生は 13,351 名、修士課程修了生は 1,287 名(うち専門看護師課程修了生 189 名)、博士後期課程修了生は 185 名で、いずれも前年度よりも増えていた。学部卒業生のうち編入生は 828 名で学部卒業生の 6.2%で、昨年の 7.0%より低下していた。

表 3-11. 看護系学部・学科の卒業生および修了生

()内は回答校数

		卒業生・修了生の人数							
		合計		国立		公立		私立	
		合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数
学部卒業 生	全体	13,351 (155)	86.1	3,188 (41)	77.8	3,515 (42)	83.7	6,648 (72)	92.3
	うち編入学生	828 (100)	8.3	316 (36)	8.8	314 (30)	10.5	198 (34)	5.8
修士課程 修了	修士課程	1,287 (112)	11.5	529 (42)	12.6	347 (38)	9.1	411 (32)	12.8
	うち専門看護師課程	189 (45)	4.2	41 (16)	2.6	68 (13)	5.2	80 (16)	5.0
博士後期課程修了		185 (41)	4.5	120 (17)	7.1	33 (16)	2.1	32 (8)	4.0
論文博士号取得		39 (18)	2.2	20 (9)	2.2	13 (6)	2.2	6 (3)	2.0

表 3-12. 卒業時取得・既修得免許

			合計							
			看護師		保健師		助産師		養護教諭 1 種	
			合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数	合計 人数	平均 人数
国立	学部卒業生	全体(回答:41校)	2,911	71.0	2,793	68.1	329	8.0	141	3.4
		上記のうち編入学生 (回答:22校)	198	9.0	188	8.5	17	0.8	13	0.6
	修士課程修了	修士課程(回答:28校)	286	10.2	131	4.7	37	1.3	7	0.3
公立	学部卒業生	全体(回答:42校)	3,325	79.2	3,194	76.0	226	5.4	257	6.1
		上記のうち編入学生 (回答:24校)	278	11.6	251	10.5	30	1.3	5	0.2
	修士課程修了	修士課程(回答:30校)	261	8.7	113	3.8	39	1.3	8	0.3
私立	学部卒業生	全体(回答:71校)	6,168	86.9	4,854	68.4	167	2.4	322	4.5
		上記のうち編入学生 (回答:23校)	116	5.0	103	4.5	3	0.1	7	0.3
	修士課程修了	修士課程(回答:26校)	336	12.9	105	4.0	82	3.2	1	0.0
合計	学部卒業生	全体(回答:154校)	12,404	80.5	10,841	70.4	722	4.7	720	4.7
		上記のうち編入学生 (回答:69校)	592	8.6	542	7.9	50	0.7	25	0.4
	修士課程修了	修士課程(回答:84校)	883	10.5	349	4.2	158	1.9	16	0.2

卒業時の取得免許・既取得免許についてみると、学部・学科卒業生のうち、看護師免許取得は既取得者である編入学生を含めて12,404名、保健師免許は10,841名、助産師722名、養護教諭1種免許720名であった。昨年に比べ、看護師が275名増加、保健師は24名減少、助産師が37名増加、養護教諭1種は227名の大幅な増加であった。2011年度は、保健師と助産師学校養成所指定規則の改正による授業科目の増加を目前に控え、各大学が教育課程の移行を進めていた時期であり、保健師国家試験受験資格を得る課程を選択制とする大学がでてきていたためと考えられる。

4) 卒業生・修了生の就職・進学状況(表 3-13)

看護系学部・学科卒業生の卒業時点の進路は、卒業生 12,835 名のうち 11,341 名(88.4%)が病院に、次いで保健所・市町村・健診センターへの就職が 577 名(4.5%)であった。進学先は、助産師課程 239 名(1.9%)、国内の看護系大学院 186 名(1.4%)が多く、全体に占める割合は昨年とほぼ同じであった。しかし、昨年度同様、看護系以外の大学院に進学した卒業生、国内の他学部に進学した卒業生も 26 名いた。

修士課程・博士前期課程修了生については、1,130 名のうち、616 名(54.5%)が病院に就職し、このうち専門看護師課程修了生が 146 名を占めた。修士課程修了生で大学・短大・研究機関等へ就職したのは 177 名(15.7%)で、このうち 6 名は専門看護師課程の修了生であった。修士課程終了後に大学院進学した者は 63 名で、看護系以外の大学院に進んだ者が 3 人いた。博士後期課程修了生 165 名では、128 名(77.6%)が大学・短大・研究機関等に就職し、病院には 16 名(9.7%)が就職していた。教育・研究機関へ就職が年々増え、病院への就職は減少していることがわかった。

表 3-14. 卒業・修了生の就職・進学状況

就職・進学先別		学部卒業生	修士課程修了生		博士後期 課程修了生	
			修士課程			
			うち専門看護 師課程			
就職者内訳	病院	11,341(88.4%)	616(54.5%)	146(89.6%)	16(9.7%)	
	診療所	12(0.1%)	7(0.6%)	1(0.6%)	2(1.2%)	
	福祉関係施設	17(0.1%)	15(1.3%)	0(0.0%)	1(0.6%)	
	訪問看護ステーション	11(0.1%)	13(1.2%)	3(1.8%)	0(0.0%)	
	保健所・市町村・健診センター	577(4.5%)	64(5.7%)	2(1.2%)	1(0.6%)	
	企業	71(0.6%)	30(2.7%)	1(0.6%)	4(2.4%)	
	学校	130(1.0%)	31(2.7%)	0(0.0%)	7(4.2%)	
	大学・短大・研究機関等	5(0.0%)	177(15.7%)	6(3.7%)	128(77.6%)	
	専修・各種学校	3(0.0%)	40(3.5%)	0(0.0%)	2(1.2%)	
	その他	111(0.9%)	68(6.0%)	1(0.6%)	4(2.4%)	
進学者内訳	国内の	看護系	186(1.4%)	60(5.3%)	2(1.2%)	0(0.0%)
	大学院		看護系以外	26(0.2%)	3(0.3%)	0(0.0%)
		助産師課程	239(1.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		国内の他学部	36(0.3%)	1(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		海外留学	5(0.0%)	1(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		その他	65(0.5%)	4(0.4%)	1(0.6%)	0(0.0%)
合計		12,835(100.0%)	1,130(100.0%)	163(100.0%)	165(100.0%)	

4. 教員の研究活動（表 4-1、表 4-2）

2011 年度看護系大学、学科、大学院に所属する教員（医療系の資格を持たない教員も含む）の文部科学省研究費補助金新規申請は、延べ 2,456 件で、2010 年度の 2,403 件と比較すると 53 件の増加であった。増加が多かったのは、若手研究において 26 件、基盤研究（C）においては 27 件の増加であった。挑戦的萌芽研究 24 件の減少が見られた。挑戦的萌芽研究の採択率は、昨年は 14.3%と低かったことが、応募数の減少を招いたと考えられる。しかし、2011 年の採択率は 31.6%と上昇していた。

基盤研究（A）の申請は 16 件と、昨年の 15 件と同様に少なかった。採択率は昨年と同様であった。基盤 B は 168 件、基盤 C は 1198 件で、ほぼ昨年と同様の申請数であった。採択率では、基盤研究 C において、2010 年度は 25.8%であったのが、34.2%と高くなった。申請件数が多かったのは、基盤研究 C および若手研究であった。これらが多く占める理由としては、申請者の年齢が若いことも反映していると考えられ、これらの採択課題が、将来にわたって、基盤研究 B や基盤研究 A などに申請できるような成果を出していく可能性が示唆される。

表 4-1. 研究費取得状況

（ ）内は校数

研究活動		合計				
		新規件数（研究代表者） ※分担者を含まない			継続 件数 （件）	回答校の 合計金額 （千円）
		申請 件数 （件）	採択 件数 （件）	採択率 （%）		
文部 科学 省	基盤研究 A	16 (12 校)	5 (4 校)	31.3%	15 (13 校)	189,970 (16 校)
	基盤研究 B	168 (82 校)	46 (29 校)	27.4%	123 (68 校)	553,112 (72 校)
	基盤研究 C	1198 (154 校)	410 (139 校)	34.2%	566 (143 校)	1,191,248 (157 校)
科学 研究 費補 助金	挑戦的萌芽研究	383 (114 校)	121 (78 校)	31.6%	80 (53 校)	240,359 (94 校)
	奨励研究	15 (4 校)	4 (3 校)	26.7%	0 (0 校)	739 (2 校)
	若手研究	592 (130 校)	207 (92 校)	35.0%	262 (107 校)	475,467 (127 校)
	特定領域研究	7 (5 校)	4 (3 校)	57.1%	3 (2 校)	51,450 (2 校)
	研究成果公開促進費	4 (4 校)	2 (2 校)	50.0%	1 (1 校)	4,450 (3 校)
	その他	73 (30 校)	32 (20 校)	43.8%	32 (25 校)	104,207 (37 校)
厚生科学研究費補助金		27 (23 校)	10 (10 校)	37.0%	15 (10 校)	217,552 (18 校)
合計		2,403	841	34.90%	1,097	2,528,554

表 4-2 は、設置主体別の研究費取得状況である。基盤研究 C の申請数が公立大学において多い以外、申請数は、設置主体別ではほぼ同様の傾向であった。私立大学では、とくに基盤研究 C で 76 校に対して 419 件、若手研究では 51 校に対して 165 件と、大学数の割には申請件数が少なかった。採択率では、公立大学・私立大学に比較して、国立大学がやや高い傾向にあった。

表 4-2. 設置主体別研究費取得状況

() 内は校数

研究活動		新規件数(研究代表者)※分担者を含まない								
		国立			公立			私立		
		申請 件数 (件)	採択 件数 (件)	採択 率 (%)	申請 件数 (件)	採択 件数 (件)	採択 率 (%)	申請 件数 (件)	採択 件数 (件)	採択 率 (%)
文 部 科 学 省	基盤研究 A	7 (4校)	3 (2校)	42.9%	3 (2校)	0 (0校)	0.0%	6 (6校)	2 (2校)	33.3%
	基盤研究 B	62 (29校)	23 (15校)	37.1%	52 (25校)	11 (9校)	21.2%	54 (28校)	12 (5校)	22.2%
	基盤研究 C	330 (39校)	110 (38校)	33.3%	449 (39校)	153 (39校)	34.1%	419 (76校)	147 (62校)	35.1%
科 学 研 究 費 補 助 金	挑戦的萌芽研究	138 (34校)	46 (25校)	33.3%	125 (35校)	40 (25校)	32.0%	120 (45校)	35 (28校)	29.2%
	奨励研究	1 (1校)	1 (1校)	100.0%	12 (2校)	1 (1校)	8.3%	2 (1校)	2 (1校)	100.0%
	若手研究	197 (40校)	81 (35校)	41.1%	230 (39校)	66 (23校)	28.7%	165 (51校)	60 (34校)	36.4%
	特定領域研究	3 (2校)	2 (1校)	66.7%	0 (0校)	0 (0校)	-	4 (3校)	2 (2校)	50.0%
	研究成果公開促進費	0 (0校)	0 (0校)	-	1 (1校)	0 (0校)	0.0%	3 (3校)	2 (2校)	66.7%
	その他	17 (8校)	7 (5校)	41.2%	39 (13校)	19 (10校)	48.7%	17 (9校)	6 (5校)	35.3%
厚生科学研究費補助金		12 (10校)	5 (5校)	41.7%	8 (7校)	2 (2校)	25.0%	7 (6校)	3 (3校)	42.9%

5. 社会貢献

1) 公開講座の開催 (表 5-1)

2011 年度に看護系大学が主催した公開講座は、一般市民対象の開催が延べ 431 件であった。2010 年度の 376 件に比較すると大きな増加であった。有料であったのは、19.0%であった。看護職者対象は延べ 320 件で、44.3%が有料であった。2010 年度と比較すると 51 件の減少で、有料率も 36.7%から上昇した。大学の社会貢献を意識してか、一般市民対象への公開講座数が増加している傾向が顕著にみられた。

表 5-1. 公開講座開催数・参加数・参加費

主な対象者	参加費用	実施校数 (校)	公開講座数 (件)	総延べ参加人数 (人)
一般市民	無料	97	349	25,709
	有料	23	82	11,070
看護職者	無料	53	178	9,037
	有料	41	142	12,739
その他	無料	19	77	3,568
	有料	8	23	1,666

2) 教員の各種機関への貢献 (表 5-2)

看護系大学の教員による、実践現場や種々の機関への協力、貢献について回答を得た。〈講師派遣〉への回答が多かった。「講師派遣」は延べ 7,804 件で、昨年の 9,427 件を大きく下回った結果となった。そのうち、「教育研究機関」への派遣が 1,955 件と最も多く、次いで「職能団体」の 1,702 件、「病院」の 1,662 件などであった。この傾向は 2010 年度と同様であった。〈共同研究〉では、延べ 1,173 件で、昨年よりも 153 件の増加であった。そのうち最も多いのは、「病院との共同研究」465 件、次いで「教育研究機関」327 件、「行政」121 件等であった。〈その他 (各種委嘱委員等) 〉では、「行政」1,111 件、「職能団体」1,231 件など、多くの大学の社会貢献が顕著にみられている。

表 5-2. 各種機関への貢献件数

() 内は校数

	病院	保健所、訪問看護ステーション	職能団体	行政	教育研究機関	企業	その他	合計
共同研究	465 (70 校)	76 (37 校)	55 (27 校)	121 (46 校)	327 (70 校)	68 (31 校)	61 (26 校)	1,173 —
講師派遣	1,662 (145 校)	408 (84 校)	1,702 (135 校)	1,080 (123 校)	1,955 (136 校)	247 (63 校)	750 (92 校)	7,804 —
その他 (各種委嘱委員等)	329 (80 校)	86 (31 校)	1,213 (129 校)	1,111 (134 校)	434 (83 校)	80 (33 校)	614 (82 校)	3,867 —

6. 看護関連附属研究・研修機関（表 6-1、表 6-2、表 6-3、表 6-4）

2010 年度調査まで附属研究機関について尋ねていたが、看護系大学附属機関が看護実践や看護教育に関する機能を併せ持ち、必ずしも研究機能と位置付けられていないことから 2011 年度調査より、研究・研修機関として調査した。

附属研究・研修機関を有する大学は 186 校中 51 校（27.4%）であり、公立大学が最も高い割合であった。附属研究・研修機関の専任者は、教員 486 人（一校あたり平均 9.52 人）、研究員 52 人（同 1.0 人）、職員 80 人（同 1.6 人）であり、教員の人数が昨年度の 528 人（一校あたり 12.8 人）より減少した。

附属研究・研修機関の財政基盤は、「大学の予算内」が 45 校（88.2%）と大多数を占めた。附属研究・研修機関の活動内容は、「看護職のための継続教育」34 校、「認定看護師教育課程」25 校、「共同研究」23 校、「市民向けの生涯学習や健康教育」22 校の順であった。

表 6-1. 看護系の附属研究機関・研修機関の有無 186 校

	ある	ない	回答校
国立	7 (16.7%)	35 (83.3%)	42 (100.0%)
公立	17 (38.6%)	27 (61.4%)	44 (100.0%)
私立	27 (27.0%)	73 (73.0%)	100 (100.0%)
合計	51 (27.4%)	135 (72.6%)	186 (100.0%)

表 6-2. 附属研究・研修機関が「ある」大学の組織 51 校

	教員	研究員	職員	その他
人数	486	52	80	19

表 6-3. 附属研究・研修機関の財政基盤 （複数回答）51 校

	大学の予算内	国・自治体助成金	民間の助成	その他
国立	5	1	0	1
公立	15	2	2	3
私立	25	5	2	1
合計	45	8	4	5

表 6-4. 附属研究・研修機関の活動内容 （複数回答）51 校

	市民向けの 生涯学習・ 健康教育	国際交流	共同研究	教員や研究員に よる看護実践の 提供	看護職のため の継続教育	講師の派遣	認定看護師 教育課程	その他
国立	2	1	2	4	6	2	3	0
公立	6	5	8	6	12	5	7	1
私立	14	5	13	7	16	6	15	3
合計	22	11	23	17	34	13	25	4

7. 国際交流の状況

1) 国際交流協定（表 7-1、表 7-2）

看護系の学部、学科、大学院と国際交流協定を結んでいる大学は、184 校中 108 校 58.6%であり、昨年の 51.3%より増加した。私立に比べ、国公立で協定を結んでいる割合が高かった。国際交流協定校は、アジア 14 カ国 186 件、北アメリカ 2 カ国 68 件、ヨーロッパ 7 カ国 33 件、アフリカ 1 カ国 4 件、オセアニア 4 カ国 20 件の、合計 28 カ国 311 件であった。国別にみると、中国が 72 件と最も多く、アメリカ合衆国 62 件、韓国 42 件、タイ 33 件と続いた。

表 7-1. 国際交流協定校の有無

	ある	ない	回答校
国立	30 (71.4%)	12 (28.6%)	42 (100.0%)
公立	31 (70.5%)	13 (29.5%)	44 (100.0%)
私立	47 (48.0%)	51 (52.0%)	98 (100.0%)
合計	108 (58.7%)	76 (41.3%)	184 (100.0%)

表 7-2. 国際交流協定校のある国

分類	国	件数	国	件数
アジア	中国	72	ネパール	4
	韓国	42	シンガポール	3
	タイ	33	マレーシア	2
	フィリピン	6	モンゴル	2
	インドネシア	7	カンボジア	1
	台湾	7	スリランカ	1
	ベトナム	5	ラオス	1
北アメリカ	アメリカ合衆国	62	カナダ	6
ヨーロッパ	イギリス	15	スペイン	1
	フィンランド	10	チェコ	1
	スウェーデン	3	フランス	1
	ドイツ	2		
アフリカ	エジプト	4	中央アフリカ共和国	2
オセアニア	オーストラリア	13		
	ニュージーランド	4	サモア	1

2) 在学生の留学先（表 7-3）

看護系学部、学科、大学院の在学生の単位を取得できる留学先と人数は、アジア 7 カ国 51 名、北アメリカ 2 カ国 85 名、ヨーロッパ 4 カ国 22 名、オセアニア 1 カ国 23 名の、合計 14 カ国 181 名であった。昨年度の 8 カ国 293 名と比較して、留学先が増加する一方、留学した人数は大幅に減少した。留学先を国別にみると、アメリカ合衆国が 76 名と最も多く、バングラデシュ 27 名、オーストラリア 23 名と続いた。バングラデシュへの留学が 27 名と著しく増加しているが、表 7-2 に挙げられた国際交流協定の

相手国にはない留学であることから、単位認定された科目内容の確認が必要である。公費補助による留学は合計 79 名（43.6%）と、昨年度の 71 名（24.2%）より割合が増加した。

表 7-3. 在学生の留学先

分類	国	人数	公費補助内数	国	人数	公費補助内数
アジア	バングラデシュ	27	0	カンボジア	4	0
	シンガポール	8	8	インドネシア	3	0
	韓国	4	4	タイ	1	1
	フィリピン	4	2			
北アメリカ	アメリカ合衆国	76	52	カナダ	9	0
ヨーロッパ	イギリス	12	0	フィンランド	2	2
	デンマーク	6	0	スウェーデン	2	0
オセアニア	オーストラリア	23	10			

3) 留学生の受け入れ（表 7-4）

看護系学部、学科、大学院への留学生の受け入れは、アジア 12 カ国 68 名、北アメリカ 1 カ国 2 名、南アメリカ 1 カ国 2 名、ヨーロッパ 2 カ国 3 名、アフリカ 3 カ国 3 名の、合計 19 カ国 78 名であり、昨年度の 8 カ国 293 名より減少した。国別にみると、中国からの留学生が 24 名と最も多く、シンガポール 10 名、インドネシア 10 名、韓国 9 名と続いた。公費補助による留学は 42 名（53.87%）であり、昨年度の 21 名（19.3%）より人数では 2 倍になり、割合も大幅に上昇した。

表 7-4. 留学生の受け入れ

分類	国	人数	公費補助内数	国	人数	公費補助内数
アジア	中国	24	7	モンゴル	2	1
	シンガポール	10	10	ベトナム	2	1
	インドネシア	10	7	台湾	2	0
	韓国	9	3	タイ	1	1
	ネパール	4	2	パキスタン	1	1
	フィリピン	2	2	イラン	1	1
中央アメリカ	ニカラグア	2	2			
南アメリカ	ブラジル	2	1			
ヨーロッパ	フィンランド	2	2	ドイツ	1	0
アフリカ	ケニア	1	1	リベリア	1	0
	モザンビーク	1	0			

4) 教員の海外派遣（表 7-5、表 7-6）

看護系学部、学科、大学院に所属する教員（医療系資格を持たない教員も含む）の短期海外派遣（6 カ月未満）は、アジア 19 カ国 267 名、北アメリカ 3 カ国 181 名、南アメリカ 2 カ国 2 名、ヨーロッパ 19 カ国 127 名、アフリカ 5 カ国 8 名、オセアニア 3 カ国 20 名で、合計 51 カ国 605 名であり、昨年度の

45カ国470名より増加した。国別にみると、アメリカ合衆国が119名と最も多く、韓国72名、中国55名、シンガポール35名、イギリス35名、カナダ33名と続いた。公費補助による短期海外派遣は364名(60.2%)であり、昨年度の213名より大幅に増加した。

長期海外派遣(6カ月以上)は、4カ国4名であり、昨年度の9カ国28名より大幅に減少した。全てが公費補助による派遣であった。

表7-5. 教員の短期海外派遣と公費負担の有無

分類	国	人数	公費補助内数	国	人数	公費補助内数
アジア	韓国	72	42	モンゴル	6	4
	中国	55	31	台湾	6	4
	シンガポール	35	16	イスラエル	4	3
	タイ	18	15	ラオス	2	1
	インドネシア	17	8	スリランカ	1	1
	フィリピン	11	9	マレーシア	1	1
	ベトナム	10	9	インド	1	0
	カンボジア	10	6	パキスタン	1	0
	ネパール	8	7	ウズベキスタン	1	0
	バングラデシュ	8	5			
北アメリカ	アメリカ合衆国	119	78	メキシコ	29	11
	カナダ	33	17			
南アメリカ	ブラジル	1	1	アルゼンチン	1	0
ヨーロッパ	イギリス	35	23	オーストリア	2	2
	マルタ	25	13	クロアチア	2	2
	フィンランド	11	6	トルコ	2	2
	スウェーデン	15	3	イタリア	2	1
	スイス	8	1	スペイン	2	0
	ポルトガル	5	5	オランダ	1	1
	デンマーク	4	4	ブルガリア	1	1
	ドイツ	4	2	ベルギー	1	1
	フランス	3	3	ポーランド	1	1
	ノルウェー	3	2			
アフリカ	南アフリカ共和国	4	3	モロッコ	1	0
	マダガスカル	1	1	中央アフリカ共和国	1	0
	ブルンジ	1	0			
オセアニア	オーストラリア	16	14			
	ニュージーランド	3	3			
中東	アラブ首長国連邦	1	1			

表 7-6. 教員の長期海外派遣

国	人数	公費補助 内数
中国	1	1
シンガポール	1	1
アメリカ合衆国	1	1
イギリス	1	1

5) 学生以外（教員、研究者、実践家等）の受け入れ（表 7-7）

学生以外（教員、研究者、実践家等）の受け入れは、アジア 15 カ国 63 名、北アメリカ 1 カ国 20 名、ヨーロッパ 4 カ国 4 名、アフリカ 12 カ国 35 名、オセアニア 2 カ国 8 名で、合計 36 カ国 130 名で昨年度の 34 カ国 178 名より減少した。国別にみると、アメリカ合衆国が 20 名と最も多く、中国 12 名、フィンランド 9 名、タイ 8 名と続いた。公費補助による受け入れは 73 名（56.1%）であり、昨年度の 75 名（42.1%）より割合が減少した。

表 7-7. 学生以外（教員、研究者、実践家等）の海外からの受け入れ

分類	国	人数	公費補助 内数	国	人数	公費補助 内数
アジア	中国	12	7	バングラデシュ	2	2
	ラオス	3	1	パキスタン	2	2
	タイ	8	4	フィリピン	2	0
	モンゴル	6	6	イラク	2	0
	シンガポール	6	0	インド	1	0
	ベトナム	1	0	ネパール	1	0
	インドネシア	3	3	アフガニスタン	2	0
北アメリカ	アメリカ合衆国	20	12			
南アメリカ	ベネズエラ	1	1			
ヨーロッパ	スウェーデン	1	1	フィンランド	9	2
	デンマーク	1	1	コソボ	1	0
	イギリス	5	2			
アフリカ	ジンバブエ	8	5	ナミビア	2	2
	タンザニア	7	7	スーダン	1	0
	ガーナ	3	3	ケニア	2	0
	ブルキナファソ	3	0	南アフリカ共和国	2	0
	エチオピア	2	2	マラウイ	1	1
	ナイジェリア	2	2			
オセアニア	フィジー	7	7	オーストラリア	1	0

2011年度 看護系大学の教育等に関する実態調査にご協力頂いた会員校（193校）

秋田大学大学院 医学系研究科保健学専攻	福井大学 医学部看護学科
旭川医科大学 医学部看護学科	北海道大学大学院 保健科学研究所
愛媛大学大学院 医学系研究科看護学専攻	三重大学 医学部看護学科
大分大学 医学部看護学科	宮崎大学 医学部看護学科
大阪大学大学院 医学系研究科保健学専攻統合保健看護科学分野	山形大学 医学部看護学科
岡山大学大学院 保健学研究科看護学分野	山口大学大学院 医学系研究科保健学系学域
香川大学 医学部看護学科	山梨大学大学院 医学工学総合研究部看護学専攻
鹿児島大学 医学部保健学科看護学専攻	琉球大学 医学部保健学科
金沢大学 医薬保健研究域保健学系看護科学領域	愛知県立大学 看護学部看護学科
岐阜大学 医学部看護学科	青森県立保健大学
九州大学大学院 医学研究院保健学部門看護学専攻	石川県立看護大学 看護学部看護学科
京都大学大学院 医学系研究科人間健康科学系	茨城県立医療大学 保健医療学部看護学科
熊本大学大学院 生命科学研究部 環境社会医学部門看護学講座	岩手県立大学 看護学部看護学科
群馬大学大学院 保健学研究科	愛媛県立医療技術大学 保健科学部看護学科
高知大学 医学部看護学科	大分県立看護科学大学 看護学部看護学科
神戸大学大学院 保健学研究科看護学領域（看護学専攻）	大阪市立大学 医学部看護学科
佐賀大学 医学部看護学科	大阪府立大学 看護学部看護学科
滋賀医科大学 医学部看護学科	岡山県立大学 保健福祉学部看護学科
島根大学 医学部看護学科	沖縄県立看護大学
信州大学 医学部保健学科看護学専攻	香川県立保健医療大学 保健医療学部看護学科
千葉大学大学院 看護学研究科	神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部看護学科
筑波大学 医学群看護学類	岐阜県立看護大学 看護学部看護学科
東京大学 医学部健康総合科学科	京都府立医科大学 医学部看護学科
東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科総合保健看護学専攻	群馬県立県民健康科学大学 看護学部看護学科
東北大学大学院 医学系研究科保健学専攻看護学コース	長崎県立大学 看護栄養学部看護学科
徳島大学大学院 ヘルスバイオサイエンス研究部看護学講座	県立広島大学 保健福祉学部看護学科
鳥取大学 医学部保健学科看護学専攻	高知県立大学 看護学部看護学科
富山大学 医学部看護学科	神戸市看護大学 看護学部看護学科
長崎大学 医学部保健学科看護学専攻	公立大学法人埼玉県立大学 保健医療福祉学部看護学科
名古屋大学 医学部保健学科看護学専攻	札幌医科大学 保健医療学部看護学科
新潟大学 医学部保健学科看護学専攻	札幌市立大学 看護学部看護学科
浜松医科大学 医学部看護学科	滋賀県立大学 人間看護学部人間看護学科
弘前大学大学院 保健学研究科	静岡県立大学 看護学部看護学科
首都大学東京 健康福祉学部看護学科	国際医療福祉大学 小田原保健医療学部看護学科
長野県看護大学 看護学部看護学科	埼玉医科大学 保健医療学部看護学科
名古屋市立大学 看護学部看護学科	産業医科大学 産業保健学部看護学科
奈良県立医科大学 医学部看護学科	自治医科大学 看護学部看護学科

(続き1)2011年度 看護系大学の教育等に関する実態調査にご協力頂いた会員校

新潟県立看護大学 看護学部看護学科
兵庫県立大学 看護学部看護学科
福井県立大学 看護福祉学部看護学科
福岡県立大学 看護学部看護学科
福島県立医科大学 看護学部看護学科
三重県立看護大学 看護学部看護学科
宮城大学 看護学部看護学科
宮崎県立看護大学 看護学部看護学科
公立大学法人山形県立保健医療大学 保健医療学部看護学科
山口県立大学 看護栄養学部看護学科
山梨県立大学 看護学部看護学科
横浜市立大学 医学部看護学科
和歌山県立医科大学 保健看護学部保健看護学科
千葉県立保健医療大学
新見公立大学 看護学部看護学科
公立大学法人名桜大学
愛知医科大学 看護学部看護学科
藍野大学 医療保健学部看護学科
茨城キリスト教大学 看護学部看護学科
鹿児島純心女子大学 看護栄養学部看護学科
川崎医療福祉大学 医療福祉学部保健看護学科
関西福祉大学 看護学部看護学科
北里大学 看護学部看護学科
吉備国際大学 保健医療福祉科学部看護学科
岐阜医療科学大学 保健科学部看護学科
京都橘大学 看護学部看護学科
杏林大学 保健学部看護学科
熊本保健科学大学 保健科学部看護学科
久留米大学 医学部看護学科
広島文化学園大学 看護学部看護学科
群馬パース大学
慶應義塾大学 看護医療学部看護学科
国際医療福祉大学 保健学部看護学科
武蔵野大学 看護学部看護学科
明治国際医療大学 看護学部看護学科
目白大学 看護学部看護学科
四日市看護医療大学
兵庫医療大学 看護学部看護学科
関西看護医療大学 看護学部看護学科
順天堂大学 医療看護学部看護学科
上武大学 看護学部看護学科
昭和大学 保健医療学部看護学科
西南女学院大学 保健福祉学部看護学科
聖母大学 看護学部看護学科
聖マリア学院大学 看護学部看護学科
聖隷クリストファー大学 看護学部看護学科
聖路加看護大学 看護学部看護学科
園田学園女子大学 人間健康学部人間看護学科
高崎健康福祉大学 保健医療学部看護学科
中部大学 生命健康科学部保健看護学科
帝京大学 医療技術学部看護学科
帝京平成大学 ヒューマンケア学部看護学科
天使大学
東海大学 健康科学部看護学科
東京医療保健大学 医療保健学部看護学科
東京慈恵会医科大学 医学部看護学科
東京女子医科大学 看護学部看護学科
東邦大学 看護学部
東北福祉大学 健康科学部保健看護学科
新潟医療福祉大学 健康科学部看護学科
新潟青陵大学 看護福祉心理学部看護学科
日本赤十字看護大学 看護学部看護学科
日本赤十字九州国際看護大学 看護学部看護学科
日本赤十字豊田看護大学 看護学部看護学科
日本赤十字広島看護大学 看護学部看護学科
日本赤十字北海道看護大学
兵庫大学 健康科学部看護学科
弘前学院大学 看護学部看護学科
広島国際大学 看護学部看護学科
藤田保健衛生大学 医療科学部看護学科
北海道医療大学 看護福祉学部看護学科
四国大学
西武文理大学
東京有明医療大学
豊橋創造大学
日本赤十字秋田看護大学

(続き2)2011年度 看護系大学の教育等に関する実態調査にご協力頂いた会員校

近大姫路大学 看護学部看護学科
つくば国際大学 医療保健学部看護学科
獨協医科大学 看護学部看護学科
淑徳大学 看護学部看護学科
金沢医科大学 看護学部看護学科
太成学院大学 看護学部看護学科
甲南女子大学 看護リハビリテーション学部看護学科
福岡大学 医学部看護学科
秋田看護福祉大学 看護福祉学部看護学科
旭川大学 保健福祉学部保健看護学科
北海道文教大学 人間科学部看護学科
千里金蘭大学 看護学部看護学科
畿央大学 看護医療学科
徳島文理大学 保健福祉学部看護学科
福岡女学院看護大学 看護学部看護学科
三育学院大学
桐生大学 医療保健学部看護学科
佐久大学 看護学部看護学科
神戸常盤大学 保健科学部看護学科
活水女子大学
関西医療大学
山陽学園大学
弘前医療福祉大学
広島都市学園大学
東北文化学園大学 医療福祉学部看護学科
日本保健医療大学 保健医療学部看護学科
東京医療保健大学 東が丘看護学部看護学科
東京工科大学 医療保健学部看護学科
中京学院大学 看護学部看護学科
順天堂大学 保健看護学部看護学科
相山女学園大学 看護学部看護学科
大阪医科大学 看護学部看護学科
宝塚大学 看護学部看護学科
梅花女子大学 看護学部看護学科
群馬医療福祉大学 看護学部看護学科
京都光華女子大学健康科学部看護学科
純真学園大学保健医療学部看護学科
上智大学総合人間科学部看護学科
聖泉大学看護学部看護学科
人間総合科学大学保健医療学部看護学科
森ノ宮医療大学保健医療学部看護学科
了徳寺大学健康科学部看護学科
国立看護大学校